

○ ヒラタエンマムシ (*Hololepta depressa* Lewis, 1884). この種は Lewis 氏によって "Kumagawa in Higo, Ishikari river in Yezo" と九州, 北海道産で記載された種である (1884)。県下では筆者が多可郡鳥羽で採集した (1 ex., 5-VII-1975) だけで他に県下の記録を知らない。

以上いづれにしても 3 種共調査が不十分なエンマムシたちである。

尚兵庫県には上記ヒラタエンマムシ属をもふくみエンマムシ科のものは 3 3 種が分布していることがわかっている。これ等に就いてはいづれ機会を見て報告したいと考えている。

### カツラネクイハムシ神戸市北区芦谷溪谷に産す (兵庫県甲虫相資料・121)

高 橋 寿 郎

カツラネクイハムシ (*Donacia katsurai* Kimoto, 1981) は桂孝次郎氏が芦屋市の奥池で採集されたもの並びに春沢圭太郎氏が全じく芦屋市奥山町イモリ谷にて採集されたものに基づいて木元新作博士が記載された種である (Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., No 34, P. 24, Fig. 2, 1981)。その後 "野尻湖昆虫グループ" の皆さん方の精力的なネクイハムシ類の分布調査の結果このカツラネクイハムシが兵庫県小野市, 岡山県阿哲郡哲西町の 2 ヶ所にも産することが報告された (I. C., P. 30, 1981)。

筆者は 1982 年 6 月 5 日神戸大学の奥谷禎一博士の御世話で神戸市が "ゴミ捨て場" として計画している北区の芦谷溪谷を頌栄短大福岡誠行教授の案内で調査する機会を得た。この溪谷の中に可成りの湿地帯があり, そこでこのカツラネクイハムシを 8 ♂♂, 2 ♀♀採集することが出来た。既に芦屋市と小野市での記録があるのでその中間に位置するこの地に分布していることは別にどうということはないと思われるがこの湿地が近々無くなる地点でもあり, また余り産地の知られていない種だけに記録として報告しておきたい。6 月 11 日には蜂谷幸雄氏に御無理を御願ひして再度同地へ調査におもむき可成り注意深く 2 人で調べたが 2 ♂♂しか採集出来ず, しかもいづれも限られた地点のみにしか見出されなかった。食草ははっきりとはしなかったが生えていたシラスゲに止っていた (植物の同定は岡村はた博士にして頂いた同博士に厚く御礼申しあげる)。時期的に成虫の出現がもう少々早いのかとも思う。相当付近を広範囲に調べても見つからなかったがどの様な生活をしているのかが全く見当がつかなかったことは残念である。早い時期にもっと詳しく調べれば或は更に多くいるのではな

いかと考えられる。

このあたり“神戸市最後の秘境”と言われるだけあって六甲山が国立公園としては名ばかりの無秩序開発をやりほうだいの地である現状から見ればまだまだ自然が残っている。たゞ可成り交通も不便であるし神戸市がそのあたりの土地を買占めて“ごみ捨場”にしようとしているだけに数年を経ぶして様相は一変するであろう。反対運動はやっているが反対ばかりで無く限られた地域内での自然の温存方法の検討を同時に考えて貰う運動であってほし。この湿地にはハッチョウトンボを多産する。ヒメヒカゲとかヒメタイコウチの産の期待もあるが充分わかっていない。ヨツボシナガツツハムシ(フジから)、イカリヒメジンガサハムシのように神戸市内での産の余り個体数の多くない種が採集出来ている(後者は県下での記録も大変少ないがこの地では多くいる。1 ex., 5-VI-1982, 11 exs., 13-VI-1982, leg.)。マヤサンオサムシも道路を歩行中のものが採集出来た。このあたりは冬期のオムムシ掘りでオオオサムシ、マイマイカブリを多く掘り出せたがクロナガオサの産の確認が出来ていない。以上記録として報告しておく。

末文で大変申し訳無いがこの地の調査に便宜を与えて下さった奥谷、福岡両先生並びに蜂谷氏に厚く御礼をのべさせて頂く。

## キイロヒメテントウ神戸市内に産す (兵庫県甲虫相資料・122)

高橋 寿郎

キイロヒメテントウ *Scymnus (Pullus) syoitii* H. Sasaji, 1971 は宮本正一博士が福岡市の香椎で採集された ♂♂, ♀♀ をタイプに原色図をつけて佐々治寛之博士により記載された種である (*Fauna Japonica, Coccinellidae*. pp.146-148, pl. VII, fig. 54, 1971)。

小さい種で(体長 1.15 - 1.45 mm), 筆者が神戸市の鳥原で採集して佐々治博士に同定御願したものがこの種に該当するとのこと(1 ex., 16-VI-1975)。同博士によると原記載に使用された標本以外、小笠原産のものを知るだけの珍しい種だとのこと。勿論本州からも初記録になるし兵庫県下の初記録になる。たゞ残念なことに筆者の不注意でどのような状況で採集したか記憶に無くその棲息状況が全くわからない。さらに調査をしなくてはならないと思っている。

同定して下さった佐々治博士に厚く御礼申し上げる。尚標本は同博士の手許に保管されている。